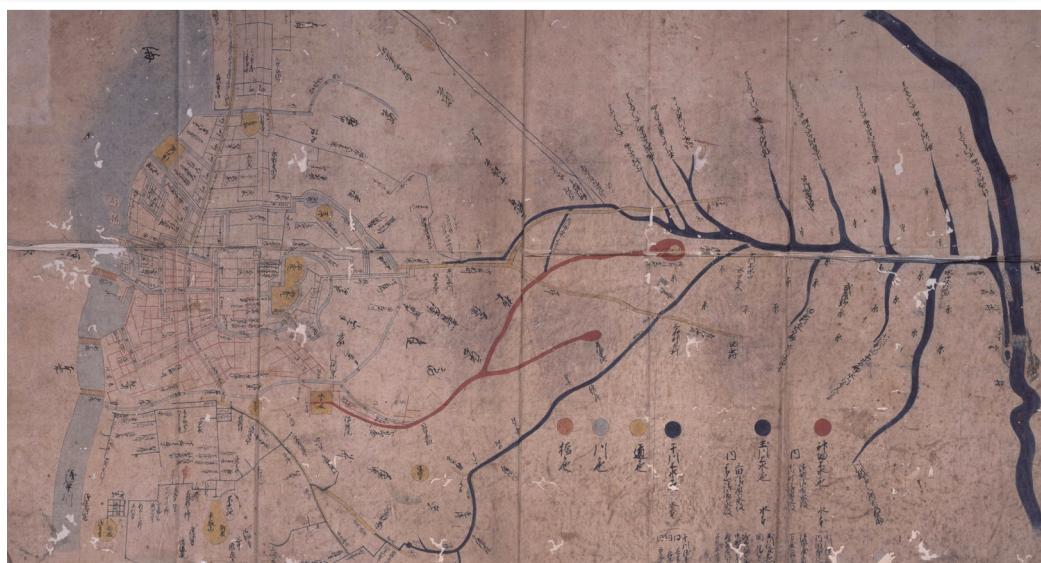
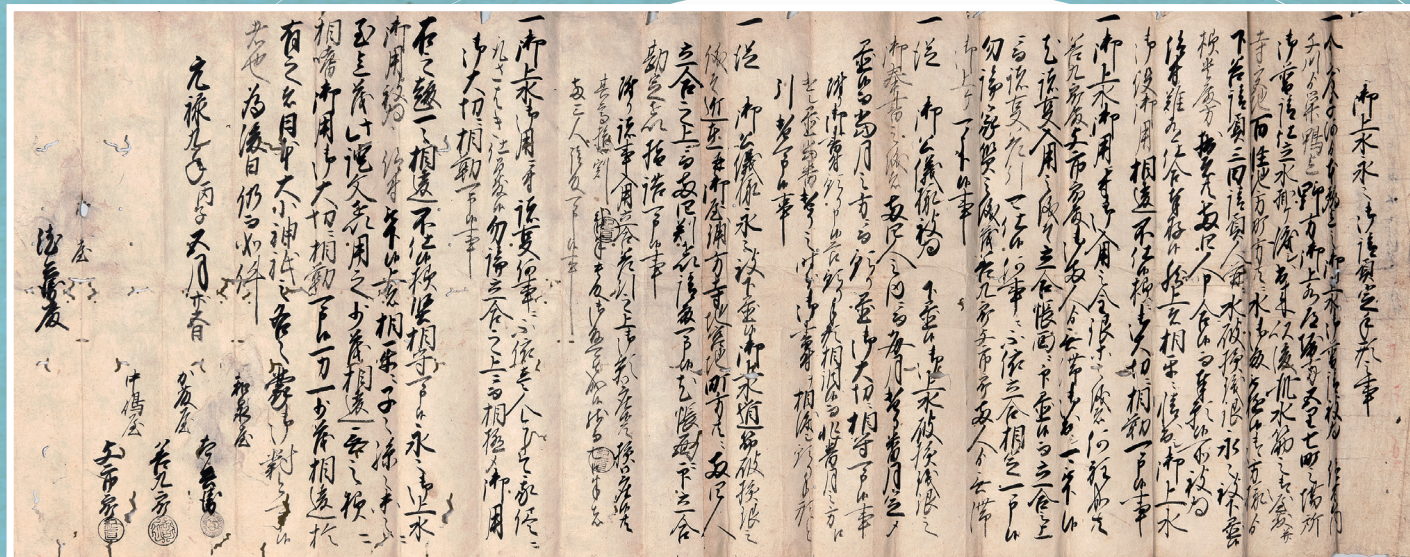


ふるさと文化館ニユース

Newsletter of Nerima Shakujiikoen Furusato Museum



令和8(2026)年

9/12 土

11/3 火・祝

特別展

水を守る

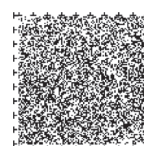
— 千川家と千川上水の330年 —

(上)「御上水永々御請負定手形之事」元禄9(1696)年

千川家文書で最も古い年記を持つ資料。「千川」から本郷まで請け負った上水工事のうち、巣鴨まで通水したことや、開削に関わった4家間での管理体制について記しています。

(下)「江戸上水配水図」享保2(1717)年〜享保3(1718)年頃

江戸市中を流れる上水の配水路が描かれています。



特別展 「水を守る—千川家と千川上水の330年—」

会 期：令和8年9月12日(土)～11月3日(火・祝)

会 場：石神井公園ふるさと文化館2階 企画展示室

観覧料：一般 300(200)円、高校生・大学生 200(100)円、65～74歳の方 150円、中学生以下と75歳以上の方 無料

※身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は一般150円／高校生・大学生 100円

※()内は20名以上の団体料金

※一般以外の割引対象の方は年齢等の確認できるものをお持ちください

※練馬区立美術館との相互割引あり



昭和27(1952)年頃撮影 現在の練馬駅付近を流れる千川上水。

元禄9(1696)年、江戸幕府は5代将軍徳川綱吉の御成御殿である小石川御殿などへ水を届けるため、玉川上水から分水する千川上水を開削しました。その工事を請負い、「千川」の名字を与えられた町人が、千川家です。千川上水は江戸の武家屋敷や寺社などへ水を送り、やがて流路沿いの村々の田を潤す用水としても利用されました。

しかし、水はいつも十分に流れたわけではありません。水が届かない村、水料米の支払いをめぐる争い、水車の設置、幕末の幕府による反射炉・錐台水車計画、明治維新後の制度変更など、千川上水の歴史は、限りある水をめぐる人びとの交渉の歴史でもありました。

本展では、練馬区指定文化財「千川家文書」などから、千川上水の開削から用水管理、幕末・明治期の変化、千川家が管理を離れるまでの歩みを紹介します。

古文書や絵図、古写真、地図を通じて、地域の暮らしを支えた水と、それを守り続けた人びとの歩みを、ぜひ会場でご覧ください。

関連イベント

フィールドワーク「千川上水を歩く」

日時 10月25日(日)9時30分～12時(荒天時は中止) **参加費** 50円(保険料実費)

申込 往復はがき、またはHP申込フォームにて10月1日(木)必着

定員 20名(抽選)

集合 西武新宿線上井草駅 **解散** 西武新宿線東伏見駅

対象 小学生以上、最初から最後まで歩ける人

展示解説会

日時 9月27日(日)、10月21日(水) 各回14時～(30分程度) **参加費** 観覧料

会場 石神井公園ふるさと文化館 2階 企画展示室(直接会場にお集まりください)

詳しくは、本展チラシ、
当館ホームページを
ご覧ください

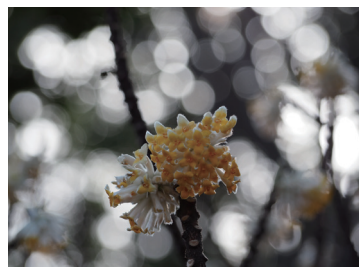
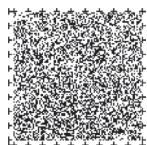


コラム 上水の土手にミツマタを植える!?

千川上水を守る仕事は、水の流れを見ることだけではありませんでした。安政5(1858)年、千川家のもとに、千川上水の土手に植えている雑木を、^{はぜ} 檜、漆、^{うるし} 椿、ミツマタに植え替えても差し支えないか、幕府が確認しているとの情報を下練馬村の村役人から入手します。これに対し上水沿岸の村々と千川家は、「深く根を張る雑木によってようやく土手を保っており、植え替えれば土手が崩れてしまう」と訴えました。

なぜ幕府はこれらの植物を植えようとしたのでしょうか。実は^{ろうそく} 檜は蠟燭、漆は塗物、椿とミツマタは紙の原料となる植物のため、いずれも幕府が栽培を奨励していました。千川上水の土手も、こうした有用な植物の栽培地として注目されていたことがう

かがえます。一方で上水沿岸の村々にとって土手は、水路を守るための大切な施設でした。なお、ミツマタは旧内田家住宅の表門前でも見ることができます。枝が三つに分かれた特徴的な低木を、ぜひ探してみてください。



(上)早春に咲くミツマタの花
(下)旧内田家住宅前のミツマタ

(学芸員 平沼真実)

常設展示室には、昭和の高度経済成長期の情景を再現したコーナーがあり、石神井公園駅前広場の再現の中で、ショーケース付きのカウンターを備えるたばこ屋を目にすることができます。たばこ小売業は、明治37(1904)年から始まった専売制度下においては指定制(現在は許可制)で、店舗の設置場所や店の作り方に一定の仕様がありました。当館のたばこ屋の店頭は、平成22(2010)年の開館時、たばこと塩の博物館にもご協力いただき、昭和30年代の一般的な店先の再現をしました。

令和6年度、青梅街道沿いの練馬区関町南で、昭和15(1940)年からたばこ小売業を営む方より、店舗でたばこ販売に使用していた「たばこ陳列瓶」等をご寄贈いただきました。「たばこ陳列瓶」は、第二次世界大戦前に、大蔵省専売局(現日本たばこ産業株式会社)より支給されたもので、複数の瓶を店頭に並べて営業していましたが、瓶ごと、たばこが盗まれる被害に遭い、以後は残った瓶を店舗の奥に下げて、保管していたものだそうです。たばこ小売店には、日用品が売られたり、店頭で公衆電話が置かれたりして、地域のよりどころとなる店が多くあり、この店も同様でした。すぐ裏手に中島飛行機株式会社の武蔵工場ができ、たばこを求める人が増えたため、たばこ販売を開始し、同時に切手の販売も開始しました。戦後には店頭で公衆電話が設置されましたが、練馬区と保谷町(現西東京市)の境に位置し、23区内は電話交換手が多く早くつながったことから、練馬区の人たちだけでなく、保谷町からも多くの人が利用するようになり、4台の公衆電話が並んでいたこともあり、青梅街道を関東バス株式会社の乗合バスが運行するようになると、バス停が近くに設けられ、回数券の販売業も行うようになったということです。寄贈者からは様々なエピソードを伺いましたが、残

念ながら、かつての店舗の写真が残っていなかったため、この店舗の再現ではなく、寄贈いただいた「たばこ陳列瓶」を活用して、当館の昭和30年代のたばこ屋をよりリアルに再現することにしました。

再現するにあたり、再び、たばこと塩の博物館に相談し、昭和30年代にたばこ陳列瓶を使用している店舗の調査を行いました。昭和37(1962)年の群馬県安中市の店舗で、たばこ陳列瓶が店頭にある写真を見つけることができました。写真に、俳優の夏木陽介を起用した昭和36(1961)年のハイライトのポスターが写っていたことから、当館の再現でも掲示をしました。「たばこ陳列瓶」には、昭和30年代後半に販売していた銘柄から、「しんせい」と「ききょう」のパッケージのレプリカを作成して入れました。今まで手前で閉まっていたカーテンを開け、平成27(2015)年度に、区民の方から寄贈いただいた「フリースカーテン」を店の奥に設置し、店に奥行きを持たせました。

常設展示室の展示資料は、多くが区民の方々からの寄贈により構成されています。資料は、1点ずつ入手経緯や使用履歴、旧蔵者に関わる情報を記録した台帳を作成し、記録を残した上で、展示や研究に利用しております。展示替えをして、新しくなった「たばこ屋」を見に、是非いらしていただければと思います。

(学芸員 小宮佐知子)



常設展示室のたばこ屋(展示替え後)

ミュージアムショップのご紹介

石神井公園ふるさと文化館のミュージアムショップをご存じですか？

企画展や特別展の図録はもちろん、ここでしか手に入らない当館オリジナルグッズなどを販売しています。“ここならではのオリジナルなもの” “誰かにプレゼントしたくなるもの” “持ち帰って展覧会を思い出すきっかけになるもの” をコンセプトに、今後も商品展開してまいります。

ご来館の際は、ぜひお立ち寄りください。

ミュージアムショップ
担当者イチオシ！



石神井公園 歴史・自然マップ

価格：100円(税込)

散策のお供に！見どころ紹介

一番人気！



めりえハガキ

価格：各種10円(税込)

館内でも塗れます！

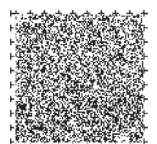
思い出の
オートスクーター



「としまえん」をつくろう！キット
3Dポップアップカード

価格：100円(税込)

カッター、はさみとのりで作ります！



催し物のご案内(令和8年10月～12月)

石神井公園ふるさと文化館展覧会

特別展「水を守る―千川家と千川上水の330年―」

9月12日(土)～11月3日(火・祝)

※展覧会および開催イベントの詳細等につきましては、2ページをご覧ください。

季節展示

歳時にあわせた年中行事を再現し、季節ごとに飾りつけなどを行います。(観覧無料)

十五夜飾り 9月19日(土)～9月29日(火)

十三夜飾り 10月17日(土)～10月27日(火)

正月飾り 12月26日(土)～1月11日(月・祝)

ふるさと文化講座

歴史・民俗・自然など様々なテーマの講座を行います。

武蔵野の植物(仮称)

12月6日(日)14時～16時

講師 仙仁徑(バルテノン多摩 学芸員)

定員 90名(抽選) **参加費** 無料

会場 石神井ふるさと文化館1階 多目的会議室

申込 事前申込制※

季節体験事業

農機具実演&体験

11月7日(土)14時～15時30分

参加費 無料

会場 旧内田家住宅前庭 ※雨天時は旧内田家住宅土間で実施(石神井公園ふるさと文化館隣接/池淵史跡公園内)

区内散策事業

石神井公園ガイドツアー

11月1日(日)10時～12時(荒天時は中止)

定員 20名

申込 事前申込制※ **参加費** 保険料50円

その他イベント

「小野蘭山墓誌」特別公開

10月24日(土)～11月3日(火・祝)

会場 石神井公園ふるさと文化館2階 常設展示室

石神井城跡発掘パネル展

10月31日(土)、11月1日(日)、11月3日(火・祝) 10時～16時

※11月2日(月)は公開なし

会場 都立石神井公園内石神井城跡

やってみよう!プロの漫画家に教わる漫画教室

10月から2月の土曜日14時～15時30分 8回連続講座

対象 小学5年生～高校生優先。保護者の参加もしくは付き添い可能

定員 30名(抽選) **申込** 事前申込制※

参加費 1,000円(8回分)を初回に支払い(返金なし)

会場 石神井公園ふるさと文化館1階 多目的会議室など

リードオルガンコンサート(仮称)

12月5日(土) 14時～15時

出演 相田南穂子(リードオルガン)

定員 72名(抽選) **参加費** 無料 **申込** 事前申込制※

会場 石神井公園ふるさと文化館1階 多目的会議室

第2回絵本とあそぶ会

12月20日(日) 14時～14時45分

対象 幼児～小学生と保護者 **定員** 50名

参加費 無料 **申込** 事前申込制※

会場 石神井公園ふるさと文化館1階 多目的会議室

分室

五味康祐のオーディオで聴くレコードコンサート

10月31日(土)、11月21日(土)、12月26日(土)

①13時30分～15時 ②15時30分～17時

対象 中学生以上 **定員** 各回20名(抽選)

参加費 各回300円～500円(解説員により異なる)

会場 石神井松の風文化公園管理棟2階
五味康祐オーディオ展示室 **申込** 事前申込制※

※各催しの開催時期・内容は変更になることがあります。また、募集時期・申込方法については、ねりま区報や当館ホームページ等でお知らせします。

利用のご案内(令和8年9月現在)

開館時間 9時～18時(会議室の利用は、9時～21時30分) **入館無料** ※特別展は一部を除いて有料

休館日 月曜日(月曜日が祝休日のときは、その翌平日)、年末年始(12月29日～1月3日)、臨時休館日

石神井公園ふるさと文化館

徒歩10分

分室

西武池袋線「石神井公園駅」下車 徒歩15分

西武新宿線「上井草駅」下車 徒歩25分

西武バス 荻14

(石神井公園駅南口～上井草駅～荻窪駅)

みどりバス 関町・南大泉ルート(保谷駅入口～武蔵関駅南口～

上石神井駅～練馬高野台駅～順天堂練馬病院)

「JA東京あおば」下車 徒歩5分

西武バス 荻15(長久保～大泉学園駅南口～上井草駅～

荻窪駅～阿佐ヶ谷駅)

「三宝寺池」下車 徒歩2分

西武池袋線「石神井公園駅」下車 徒歩15分

西武バス 吉60(成増町～石神井公園駅北口

～上石神井駅～吉祥寺駅)

西武バス 荻15(長久保～大泉学園駅南口～上井草駅

～荻窪駅～阿佐ヶ谷駅)

「石神井郵便局」下車 徒歩3分



石神井公園ふるさと文化館ニュース Vol.60

令和8(2026)年9月1日発行

編集・発行 練馬区立石神井公園ふるさと文化館(公益財団法人練馬区文化振興協会)

ホームページ <https://www.neribun.or.jp/furusato.html>

石神井公園ふるさと文化館 住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町5-12-16

石神井公園ふるさと文化館分室 住所 〒177-0045 東京都練馬区石神井台1-33-44

TEL:03-3996-4060 FAX:03-3996-4061